

## 冬-8 日本で働く

### 1. 活動の目的

- ① 仕事で経験した楽しさや大変さについて話す。
- ② 働く日本人の様子から感じた自国との文化の違いなどを話し合う。
- ③ 仕事の面接の際に気をつけることを知る。

### 2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆ 職業名の各国語訳
- ☆ 履歴書サンプル
- ・ 求人広告

### 3. 活動の手順

**留**：留意点    **参**：参考    **発**：発展的活動

#### 活動1

- ・ 過去の仕事の経験から仕事を通して得た知識や様々な体験を話してもらう。これは日本で働いた経験に限らず、自国での経験についてでもよい。そこで身についたスキルなどを聞くと、意外な特技が発見できるかもしれない。
- ・ 日本で働いた経験のある人には日本の職場で大変だった経験を聞いてみる。  
例：日本語がわからなくて困った。  
「お冷（水）」 / 「上がってもいいよ（帰ってもいいよ）」など
- ・ 自国との文化の違いで戸惑ったことがないかなど話してもらう。  
例：仕事のあとの飲み会や社員旅行など職場の付き合い、休みが取りにくいなど

#### 活動2

職業名の  
各国語訳

- ・ 今やりたい仕事は何か、またその仕事をするには何か必要な資格があるかなど話し合う。
- ・ ここで日本にはどんな仕事があるか、またその仕事の名前を確認するとよい。

**留** この活動でやりたい仕事やその理由を十分話し合っておくと、**活動4**がやりやすくなる。

- ・ 子どもの頃憧れていた職業について話し合う。国によって憧れる仕事が変わったら、どうしてその仕事をしたいと思うかなど掘り下げて聞いてみる。

**参** 日本の中学生の憧れの職業ランキング（2009年ベネッセ調べ）  
高校生の場合男子が教師・公務員・医師、女子が保育士、教師、看護師が上位にランクインしている。

#### 活動3

- ・ 電話で面接の日取りを決める。その際の電話のかけ方を練習する。ここでは、「履歴書ですね」や「4時ですね」など、相手に言われた大切なことを復唱して確かめるということに留意して練習するとよい。

#### 活動4

- ・活動2で話したことをもとに、実際に面接に行くシミュレーションをするとよい。
- ・面接に臨む際に留意することを話し合う。第一印象が大事なので、服装や髪形にも気をつけなければならない。また、座り方やおじぎの仕方などもどうすればよいか実際にやってみるとよい。

**参** 接客業では、派手なメイクや染髪、ピアス、マニキュア（ネイルアート）などが禁止されている場合がある。

- ・面接の際は筆記用具や印鑑など記録や契約に必要なものを持って行く。
- ・ボランティアが面接官になって面接の練習をする。まず、どう答えるか考えてから、実際に実演してみる。その際は声の調子や態度なども印象よくできているかチェックする。

#### 面接の質問例

- ・この仕事をしたいと思った理由はなんですか。
- ・この仕事の経験がありますか。
- ・いつから働けますか。希望の時間や曜日があれば教えてください。など

**参** 面接時は責任者の対応や職場の雰囲気を観察しておき、働きやすい職場かどうか見ておくこともアドバイスする。

#### 求人広告

- 発**
- ・レベルの高い学習者がいる場合は実際の求人広告を見ながら、吹田近郊の求人状況を見してみるのもよい。（時給の相場や求人の多い職種など）
  - ・実際に職探しの経験がある人がいたら、その方法や苦労したことなども話してもらおう。

#### 履歴書サンプル

- 参**
- ・履歴書には必ず証明写真を添付する。サイズが決まっていることや、写真を撮る際に注意することを確認する。日本では正面を向いた写真であることが絶対条件だが、国によっては斜めを向いて写す場合もある。表情の作り方や服装など気をつけることを話し合う。
  - ・証明写真は駅やコンビニの前などに設置された撮影機で手軽に撮れることを紹介する。